

ハノイ・コレクティブ・オーケストラ再び Hanoi Collective Orchestra comes back!

国際交流基金ベトナム日本文化交流センターでは、昨年に引き続きハノイ・コレクティブ・オーケストラを実施します。

ハノイ・コレクティブ・オーケストラとは、日常的な道具、素材を使って楽器を制作し、即興演奏のオーケストラとして大人数で演奏するアート・プロジェクトです。

ベトナムの若手芸術家、学生、一般市民等が参加して2015年9月に実施した「ハノイ・コレクティブ・オーケストラ」に続き、2016年7月17日（日曜日）に第二回「ハノイ・コレクティブ・オーケストラ」を実施します。

ここでの「オーケストラ」とは参加メンバーによって自由にかたちをかえる集合体で奏でる音楽の構成のことで、クラシック音楽の構成を指すものではありません。楽器習得の有無は問わず、五線譜は使用しません。

参加者は、当日会場で楽器を制作し、その楽器で、即興演奏のオーケストラとして演奏を行います。ハノイの街角から呼び起こされた、さまざまな音と、さまざまな参加者が生み出すいくつものアンサンブル、そして即興演奏のオーケストラ。「音楽家なしの音楽」がハノイで生まれます。

また、一般参加によるオーケストラ演奏だけでなく、ベトナム人、日本人、タイ人で構成するファシリテーター、そして音楽家の大友良英、サウンド・アーティストの鈴木昭男とともに約2週間のワークショップを開催します。ハノイの街で音を探し、楽器の素材を探し、演奏方法を試しながら楽器を考案し、制作します。



一般参加者の入場は無料、自由参加で事前登録の必要もありません。ぜひご参加ください。

ワークショップ参加には登録が必要です。募集要領を確認のうえ、ご応募ください。
※入場者多数の場合には、入場制限を行う場合があります。

本件に関するお問い合わせは、次の連絡先までお願いします。

担当：河井(内線:109)

国際交流基金 ベトナム日本文化交流センター

27 Quang Trung, Hoan Kiem, Hanoi, Vietnam TEL 04 3944 7419 www.jpfa.org.vn

Hanoi Collective Orchestra

ハノイ

日時:

7月17日（日） 14:00～18:00

[楽器制作&アンサンブル練習] 14:00

ハノイで集めた、日常生活にあふれる素材を使って楽器を作ります。私たちが日ごろなじみのあるギターやトランペット、笛などとは違った、さまざまな音を生み出すものが出来上がるでしょう。ワークショップメンバーとともに楽器を作って、その後のオーケストラに参加しましょう！大人も子どもも一緒に参加できます。

[ワークショップメンバーによるアンサンブル発表会] 16:00

2週間かけて楽器を作り、演奏方法を考えてきたワークショップメンバーによる演奏を発表します。

[パフォーマンス] 17:00

さまざまな楽器を使って、みんなで音を出します。楽器を持っている人は、その楽器をもって参加してもかまいません。楽器を持っていない人は、ぜひワークショップで楽器を作って参加してください。オーケストラは、楽譜をつかいません。どんな音を出してどんな音楽を作るかは、参加したみなさんで決めます。自分たちの音を、自由に楽しみましょう。

会場:

国際交流基金ベトナム日本文化交流センター（中庭）
The Japan Foundation Center for Cultural Exchange in Vietnam
27 Quang Trung, Hoan Kiem, Hanoi

入場:

無料

ゲスト・アーティスト : 大友良英、鈴木昭男

ゲスト・アドバイザー : チャン・ルオン

ファシリテーター : グエン・バン・ガー、フン・ティエン・ソン、加納遥香、吉濱翔、
アーノント・ノンヤーオ、ビッグ・タッチャタム

主催 : 国際交流基金（アジアセンター）

URL : <http://jfac.jp/>

共催 : P3 Art and Enviroment

企画 : Ensembles Asia Orchestra（担当 : 有馬）

URL : <http://orchestra.ensembles.asia>

Profiles

ゲスト・アーティスト | GUEST ARTIST

大友良英 |

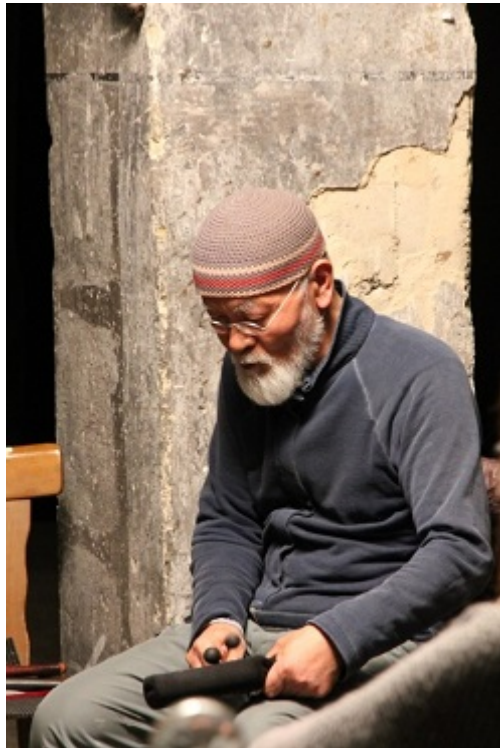
OTOMO Yoshihide

音楽家/ギタリスト/ターンテーブル奏者/
作曲家/映画音楽家/プロデューサー

1959 年横浜生れ。十代を福島市で過ごす。常に同時進行かつインディペンデントに即興演奏やノイズ的な作品からポップスに至るまで多種多様な音楽をつくり続け、その活動範囲は世界中におよぶ。映画音楽家としても数多くの映像作品の音楽を手がけ、その数は 70 作品を超える。

近年は「アンサンブルズ」の名のもとさまざまな人たちとのコラボレーションを軸に展示する音楽作品や特殊形態のコンサートを手がけると同時に、障害のある子どもたちとの音楽ワークショップや一般参加型のプロジェクトにも力をいれ、2011 年の東日本大震災を受け福島で様々な領域で活動をする人々とともにプロジェクト **FUKUSHIMA!** を立ち上げるなど、音楽におさまらない活動でも注目される。

2012 年、プロジェクト **FUKUSHIMA!** の活動で芸術選奨文部科学大臣賞芸術振興部門を受賞、2013 年には「あまちゃん」の音楽他多岐にわたる活動で東京ドラマアウォード特別賞、レコード大賞作曲賞他数多くの賞を受賞している。



ゲスト・アーティスト | GUEST ARTIST

鈴木昭男 | **SUZUKI Akio**

サウンド・アーティスト

サウンド・アートの先駆者的存在として知られる、日本を代表するサウンド・アーティストのひとり。63 年、名古屋駅中央線ホームの階段で行われた「階段に物を投げる」のパフォーマンスで音の世界に目覚め、70 年にエコー音器「ANALAIPOS」を創作。78 年、パリのフェスティヴァル・ドートンヌにて海外で初めてのパフォーマンスを行う。88 年、子午線上の京都府網野町で「日向ぼっこの空間」を発表し一日自然の音に耳を澄ます。96 年に開始した街のエコーポイントを探る「点音（おとだて）」プロジェクトは、これまでに 30 都市以上で開催されている。ドクメンタ 8（カッセル）、ドナウエッシンゲン現代音楽祭（ドイツ）、大英博物館（ロンドン）、ザツキン美術館（パリ）、AV・フェスティバル（イギリス）など、過去数十年に渡り世界各地の美術展や音楽祭に招待されている。

<http://www.akiosuzuki.com>

ゲスト・アドバイザー | GUEST ADVISER

チャン・ルオン

| **TRAN Luong**

アーティスト/キュレーター

1960年ハノイ生まれ。パフォーマンス及びヴィジュアルアーティストとして活動するほか、コンテンポラリー・アート、インディペンデントキュレーターとしてもベトナムを代表する存在。パフォーマンスやビデオを用いて実験アートに取り組む現地の第一世代のアーティストの中で、彼はローカルな体験に根差した創作活動を行う。作品は、イデオロギーが与える身体への衝撃、特に若い世代における政治的抑圧の内面を真に迫った形で反映し、個人の表現を抑圧する社会政治的残滓や政策に挑戦している。また、ハノイのアーティストの活動を促すため、ギャング・オブ・ファイブ (the Gang of Five、1983-1996) を設立し毎月オルタナティブスペースにて展覧会を開催。1998年にはベトナムにおける初めてのアーティスト主導の実験アートのためのスペースであるニャー・サン・スタジオ (Nha San Studio) を共同設立、最初4年間に開催された大多数の展覧会でキュレーターを務めた。1999年にはフォード基金の支援を受け、ハノイ現代美術センターを設立、運営。ベトナムにおけるパフォーマンスやビデオアートのための空間、イニシアティブ、ネットワーク、コミュニティの発展に貢献し、検閲や画一化などベトナム特有の文脈においては支配的基準に疑問を投げかけ、代替的ヴィジョンを支持する。さらに表現の自由、より豊かなコミュニティを創造し、若い世代を育成することに献身する。彼の動的な作品群は、個々の行動や自己反省を通して個を強化することで抑圧を批判し、人間の活力を肯定することを目指している。



撮影・録音 | SHOOTING and RECORDING

森永泰弘 |

MORINAGA Yasuhiro

サウンドデザイナー

1980年生まれ。サウンドデザイナー。東京藝術大学大学院を経て映画理論家/ミュージック・コンクレート作曲家のミシェル・シオンに師事するため渡仏。現在は、アジアを中心にフィールドワークを実践しながら、ジャンル横断的な制作活動を展開している。フィールド・レコーディング作品をリリースするレーベル「concrete」を主宰している。

www.the-concrete.org

ファシリテーター | FACILITATOR

グエン・バン・ガー | NGUYEN Ban Ga

1979 年生まれ。ベトナム美術大学卒業。ビデオ・アーティストグループである Hanoi Link (ハノイ・リンク) を共同設立。アート作品およびパフォーマンス・アートにおいて、素朴な手法で様々な異なるフォーマットを組み合わせる実験を行う。最新の作品「Salted」では、潮が満ちてくる中、彼自身が何時間にもわたり静かにビーチに立ち、大地と人間の存在の間のつながりを関係づけることを試みている。これらの作品を通して、記憶とノスタルジアの瞬間を収集する情熱を共有している。現在は Doclab Center、およびドキュメンタリー、ビデオアートではハノイのゲーテ・インスティテュートで活動している。



ファシリテーター | FACILITATOR

フン・ティエン・ソン | PHUNG Tien Son

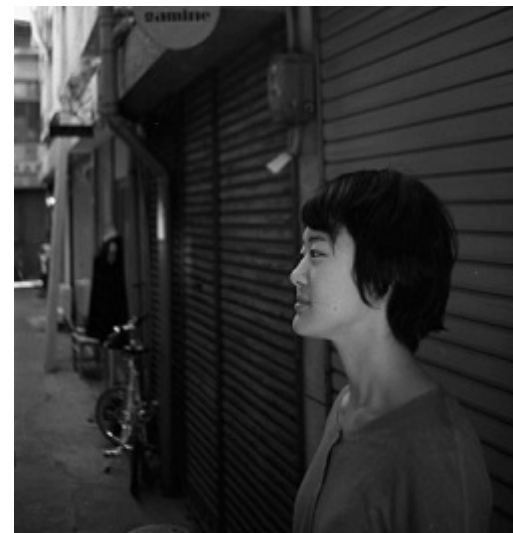
1990 年生まれ。堅苦しく旧式のベトナム教育制度に拘束されていると感じ、大学中退。アート作品におけるより実験的でリベラルなアプローチを追求する。主に、戦争、ヘビーメタル・ロックンロール、ベトナムの歴史などをテーマに取り上げ、現在はサウンド、コンピューター作成したドローイング、位置情報システム、グーグルマップなど、様々な新しいメディアを用いて実験に取り組んでいる。



ファシリテーター | FACILITATOR

加納遥香 | KANO Haruka

1990 年横浜市生まれ。2013 年一橋大学社会学部卒業（卒業論文「芸術によるフクシマの記憶化—行政はいかなることができるのか—」）、同年春より同大学大学院社会学研究科地球社会研究専攻修士課程在籍。専攻は社会学、人類学。2013 年 9 月に行われたベトナム国立交響楽団日本ツアーにおいて、一橋大学兼松講堂公演学生実行委員会代表として活動。現在は「ベトナムにおける西洋クラシック音楽の形成と発展の歴史」をテーマに研究しており、2014 年よりベトナム・ハノイ国家大学に留学、2015 年秋より同大学ベトナム学・発展科学研究院に所属。





ファシリテーター | FACILITATOR

吉濱翔 | YOSHIHAMA Syo

1985年沖縄生まれ。沖縄県立芸術大学美術工芸学部絵画専攻卒業。インプロヴィゼーションと社会的なコンテクストをベースに作品の発表を行う。沖縄の歴史や文化を参照にしながら、小さく弱い存在が搾取的な構造と対峙した時に取れる自由を問う作品が多く、音を使い、時間や空間を超え繋がりを提示する。表現方法はパフォーマンスやインスタレーション、写真、映像表現だけでなく、多くのコラボレーションワークや展覧会・演奏会などの場作りのオーガナイズなど多岐にわたる。

ファシリテーター | FACILITATOR

アーノント・ノンヤーオ | NONGYAO, Arnont

1979年生まれ。チェンマイ在住。サウンド・アート、実験的フィルムなどに焦点を当てる総合的なアーティストであり、サウンド、インスタレーション、サイト・スペシフィック、パブリック・アートなど、様々な異なるメディアを扱っている。彼は振動に関心を持ち、振動に関わる多様な実験アートのプロジェクトに携わっている。Thatchatham Silsupan とともに、チェンマイにおけるサウンドアート・コミュニティである CMC (チェンマイ・コレクティブ) の共同ディレクターを務めている。



ファシリテーター | FACILITATOR

ビッグ・タッチャタム | THATCHATHAM, Bigg

チェンマイを拠点として活動する作曲家およびサウンド・アーティスト。サウンド・インスタレーション・アート、即興、インターメディア作品、音を媒体として使用する参加型プロジェクトのような、固定的な古典的コンサートを越えた実験的聴覚作品に関心を持っている。現在はチェンマイ大学美術学部、メディアアート・デザイン学科の講師を務めている。創造的なサウンド・アーティストと実践者によるオープンネットワークである CMC (チェンマイ・コレクティブ) の共同設立者。カリフォルニア大学バークレー校において上野ケンに師事、音楽分野において Ph.D 取得。



いて上野ケンに師事、音楽分野において Ph.D 取得。

+ + + + + + + + + +
アンサンブルズ・アジア・オーケストラ

「アンサンブルズ・アジア・オーケストラ」は、音楽の専門家ではない人々と交流しながら自由なかたちのオーケストラをつくるプロジェクトとして、**2014**年にスタートしました。主催は国際交流基金アジアセンターで、音楽家の大友良英がアーティスティック・ディレクターを務めています。

アジアの人たちと音楽の楽しさを共有し、語り合いながら、これまでになかった音楽のつくり方や、人と人との新しいつながり方を見つけていくことを目的としています。

そのためにまず私たちは、自分たちにとっての未知の音楽を求めて旅を始めました。**2014**年に訪れたのは、フィリピンのシキホール島、インドネシアのバリ島、スラウェシ島、ジャワ島。この調査の中で私たちは、プロフェッショナルリズムからこぼれ落ちる驚くべき音楽たちを耳にしました。ある地域のみで独自の発展を遂げてきた音楽、作曲家や音楽家を中心ではない音楽、祭祀儀礼の中にある音楽、遊びの延長にある音楽……。さまざまな人たちがそれぞれの場所でそこにしかない音楽を奏でているのです。

そうした無名の人々による無名の音楽、それを私たちは、「音楽家なしの音楽」と呼ぶことにしました。この呼び名は、**B・ルドフスキー**の「建築家なしの建築」という考え方を下敷きにしています。

2015年からはリサーチに加え、日本とアジアで新しいオーケストラの実践を始めました。

このオーケストラでは、参加する人の資格は問いません。楽器が演奏できない人でも参加できますし、またいわゆる楽譜も使いません。どんな音楽になるのかは、音楽をつくる場所と人しだい。集まってくれた人たちとの話し合いによって、音楽のあり方も変わっていくでしょう。

すでに**3**月にはタイのチェンマイでワークショップとパフォーマンスを行い、その後も**9**月にはベトナムのハノイでオーケストラのパフォーマンスを予定しています。また訪れた都市では今後も継続して活動を進めてゆきます。

私たちは、アジアの人たちとのさらなる出会いとコミュニケーションの深まりに向けて、このプロジェクトを進めてゆきます。そしてそこで生み出される「音楽家なしの音楽」が人々の間に新しい関係を生み出すことを願っています。